

## 大分県産植物の分布型について (II)

荒金正憲

The Plant Distribution Patterns in Oita Prefecture (II)

Masanori ARAKANE

The plant distribution patterns in Oita Pref. are examined in the Bulletin of Beppu University Junior College,9 (Arakane:1990), where the perpendicular distributions of the plants are separated into four patterns.

In this, the most recent study, the sampled areas of plants in Oita Pref. is extended to include areas ranging from Oita Pref. to Kyushu district and then, in turn, the whole of Japan and further to adjoining regions on the mainland.

Thus, the new study considers the plant distributions from a global perspective taking into consideration the varying types of distributions of the certain plants. (And in this respect, the geographical distributions in Oita Pref. are seen in terms of a broader context.) Geohistorical and geological factors as well as climatological temperatures are considered to dominate these distributions.

## はじめに

大分県産植物の分布型については、既に本紀要第9号で報告した(荒金:1990)。それは、主として海拔高度による気温の遞減で影響を受ける垂直分布を、低地型、丘陵地型、低山地型及び山地型等をパターンとして『新版大分県植物誌』の「大分県産植物分布図」を用いてまとめたものである。

今回は、大分県産植物の分布域を大分県からの視野だけでなく、九州、日本全域に、さらに日本を取り巻く地域にまで広げ、同じような分布域にある植物群にまとめた。

ここでは、日本固有種(大分県固有種、九州固有種、ソハヤキ要素の植物、西南日本偏在種、北日本偏在種など)、北方寒冷地の植物(日本の北に広がる地域を含めた寒冷地の植物群)、大陸系遺存植物(満鮮要素の植物)及び暖地植物などの植物群を扱ってあ

る。

これらの植物群について、大分県での分布の傾向や分布型を考察した。植物群の県内分布にはある傾向がみられ、そのまとまりのあるものを分布型とした。それには、大気候的な温度により支配されることのほか、地史的、地質的な要因によることが認められる。

この研究で、九州固有種の分布図作成に当たり、当該地の植物の分布や地名等のご教示を頂いた初島住彦鹿児島大学名誉教授、宮崎県総合博物館南谷忠志主幹に対し、ここに謝意を表する。

## 大分県の自然的環境の概要

大分県は、九州本島の北東部に位置し、その面積は6,336平方キロメートル。北端は姫島で北緯33°44′、南端は蒲江町陣が峰で32°44′、東端は豊後水道の水ノ子燈台で東経132°11′、西端は積

迦ヶ岳山系で東経130°30′。北は遠浅の周防灘に面し、東はリアス式海岸の豊後水道に望んでいる。西は英彦山と津江山地、南は祖母・傾山系の深い溪谷を刻む急峻な山岳地帯で隣県と接しており、九重火山に九州本島の最高点(久住山: 1,786.9m)がある。

西南日本の地質を内と外に二分する中央構造線は、佐賀関半島から斜行して九州本島を横断し、その途中は、祖母山火山岩(新三紀火成岩類)で抑えられている。構造線の北側には、新旧入り交じる火山岩が広く分布し、概ね県の北西部では古い年代の耶馬溪層や豊肥火山活動の噴出物、県の中央部では由布・鶴見火山や九重火山などの新しい年代の山陰系火山の噴出物で覆われており、火山の山麓高原にはしばしば湿原や池沼が形成されている。構造線の南側は、古生層や中生層の変性岩・砂岩・礫岩などの堆積岩で覆われ、津久見市から本匠村、宇目町などには帯状に石灰岩層の露出がみられる。

気候は温暖。年平均気温16°Cの等温線は、ほぼ大分県の東側(豊後水道域)と北側(国東半島)の海岸線を通り、豊後水道域の南側(およそ鶴御崎以南)は黒潮が洗う温暖地で、冬の季節風を直接受けない無霜地域となっており、17°Cの等高線をみる。

年平均気温の等温線は九重火山を中心として、ほぼ同心円上に低くなり、海拔1,000mを越える山岳地帯では12~13°C、冬季には積雪がみられる。

年間降水量は1,600~2,600ミリ。雨量は生育期の夏季に多い。県西北側の英彦山、津江山地は多雨地域で3,000ミリを越え、雨量は北に向けて減少する。周防灘に面する中津・宇佐平野、国東半島一帯では雨の少ない瀬戸内気候で、年間降水量は1,600ミリを下回り、平地や谷間では灌漑用のため池が多くみられる。

### 分布図

個々の植物の分布を表す分布図は、都道府県の相対的な位置関係を表す模式的な位置図(図1.)を用い、当該植物について『緊急に保護を

要する動植物の選定調査のための植物都道府県別分布表』(日本野生生物研究センター:1992)により作図した。図の●は生育確認種、△は現状不明種、⊗は絶滅種を表してある。分布図の一部には現状により改変したのものがある。

日本を取り巻く地域の分布域の地名については、『日本の野生植物 シダ』(岩槻邦男編:1992)、

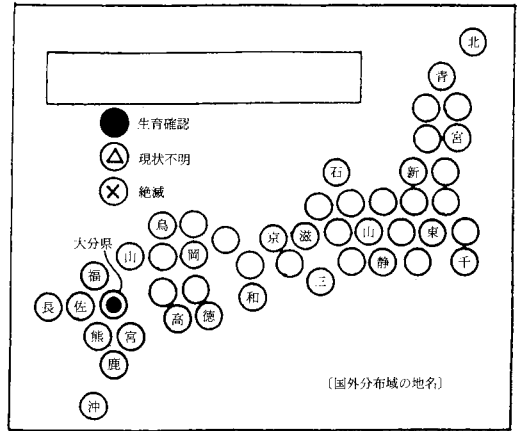


図1. 植物分布に用いた都道府県位置図

『新日本植物誌 顕花編』(大井次三郎著・北川政夫改訂:1983)によった。

### 大分県の植物分布型

大分県において希産する北方寒冷地植物や北日本に偏在する日本固有種、暖地植物などの代表的な植物の生育地を示したものが図2.である。

これによると、寒冷地の植物群は、およそ県の北西部に分布域をもち、暖地植物は県の南東部に分布域をもっている。このように、植物群によって大分県の地理的分布に特徴的なまとまりがみられる。

以下、いくつかの植物群について、その分布の傾向や分布型を検討した。

#### 1. 日本固有種

##### (1) 大分県固有種

大分県固有種には、次のものがあげられる。

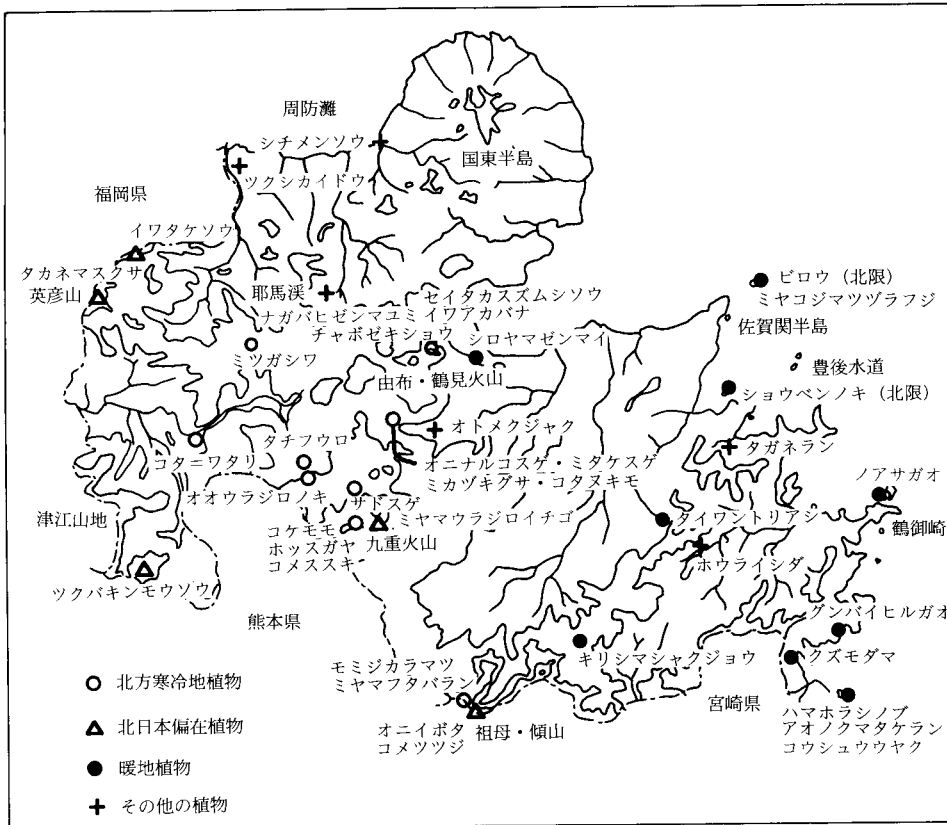


図2. 大分県希産種の生育地

- タガネラン *Calanthe bungoana* Ohwi 中国産のマツダエビネ *C. davidii* Franch と同種とする説がある。
- クジュウツリスゲ *Carex kujuzana* Ohwi  
リクチュウツリスゲ *C. kujuzana* ssp. *dissitispicula* T. Koyama と同種とする説がある。
- ツクシボダイジュ *Tilia rufo-villosa* Hatusima ツクシボダイジュとは別に、ブンゴボダイジュ *T. inouei* Hatusima が報告されている。
- ツクシボウフウ *Pimpinella thellungiana* H. Wolff var. *gustavohegiana* Kitamura

これらの分布域を示したものが、図3. である。

タガネランは、津久見市胡麻柄山の石灰岩地に、クジュウツリスゲとツクシボウフウは由

布・鶴見火山及び九重火山に、ツクシボダイジュ（ブンゴボダイジュ）は九重火山に分布する。

(2) 九州固有種

大分県産植物を含む九州固有種には、①九州北部分布型 ②九州中部分布型 ③九州本島分布型がみられ、それぞれ次の植物があげられる。図4. は、ブゼンノギク、オニコナスビなどの九州北部分布型、マルバコウツギ、ツクシドウダンなどの九州中部分布型を掲げ、図5. はミヤマキリシマ、ツクシマムシグサなど九州本島分布型を掲げてある。

( )は県名。長—長崎県、佐—佐賀県、福—福岡県、大—大分県、熊—熊本県、宮—宮崎県、鹿—鹿児島県、徳—徳島県、愛—愛媛県、東—東京都

① 九州北部分布型

九州の北部、大分県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県及び宮崎県の北部に分布域をもつ固

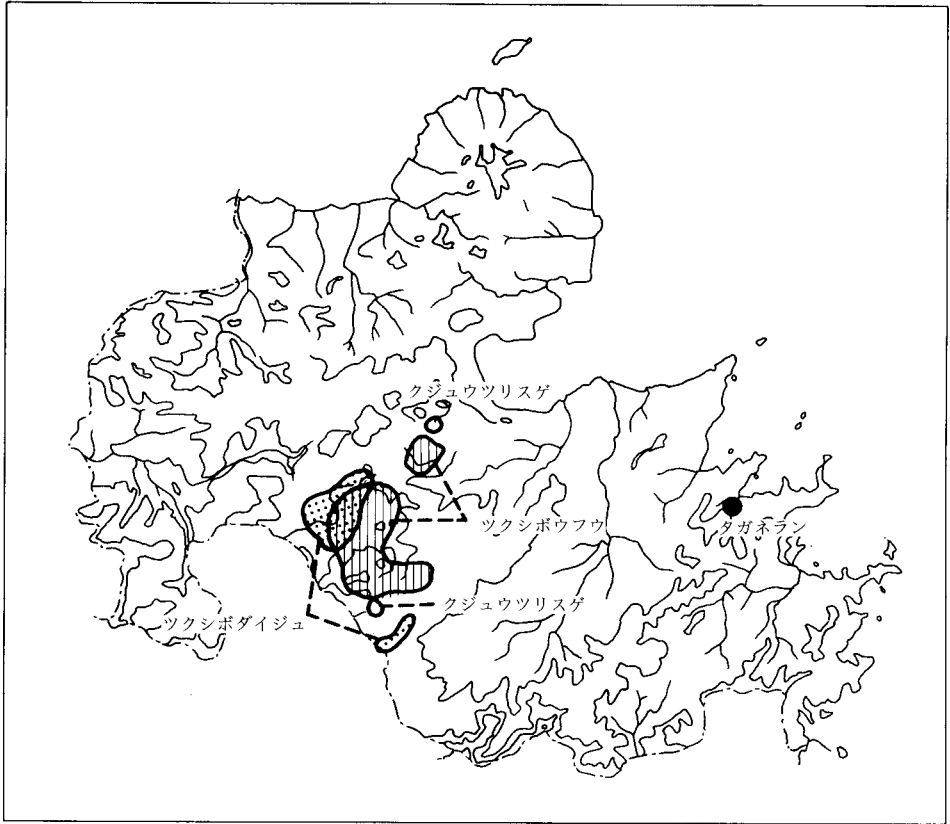


図3. 大分県固有種

有種。

大分県では主として県北の英彦山，耶馬溪・国東半島地方に分布する。

- ツクシアブラガヤ (福・大・熊?・宮?)
- ツクシチャルメルソウ (福?・大・熊・宮-愛?)
- ツクシトウキ (長・佐・大)
- オニコナスビ (佐・福・大・熊?・鹿?)
- ブゼンノギク (長・佐・福・大)

② 九州中部分布型

大分県，熊本県，宮崎県，鹿児島県の北部に分布域をもつ固有種。

大分県では，由布・鶴見火山，九重火山に集中して分布する。ツクシトウダン，ツクシカシワバハグマは祖母・傾山地まで広がる。コミノヒメウツギは本匠村の石灰岩地，ヒュウガトウキは豊後水道域の海岸に，ツクシヒトツバテンナンショウは祖母・傾山地に分布域をもつ。

- ツクシフウロ (大・熊-東?)

- ハナシノブ (大・熊)
- マルバコウツギ (大・熊)
- ヒゴイカリソウ (大・熊)  
\*大分県ではイカリソウとしてある。
- アソシケシダ (大・熊)
- ツクシヒトツバテンナンショウ (大・宮・鹿)
- ヒトヨシテンナンショウ (大・熊・宮・鹿)
- コバナノガリヤス (大・熊・宮-徳?)
- ツクシテンツキ (大・熊・鹿)
- ツクシイヌイ (大・熊)
- ツクシチドリ (大・鹿)
- キュウシュウツチトリモチ (大・熊・宮)  
\*大分県ではミヤマツチトリモチとしている。
- ウバダケギボウシ (大・宮)
- ヒュウガギボウシ (大・宮)
- コミノヒメウツギ (大・宮)

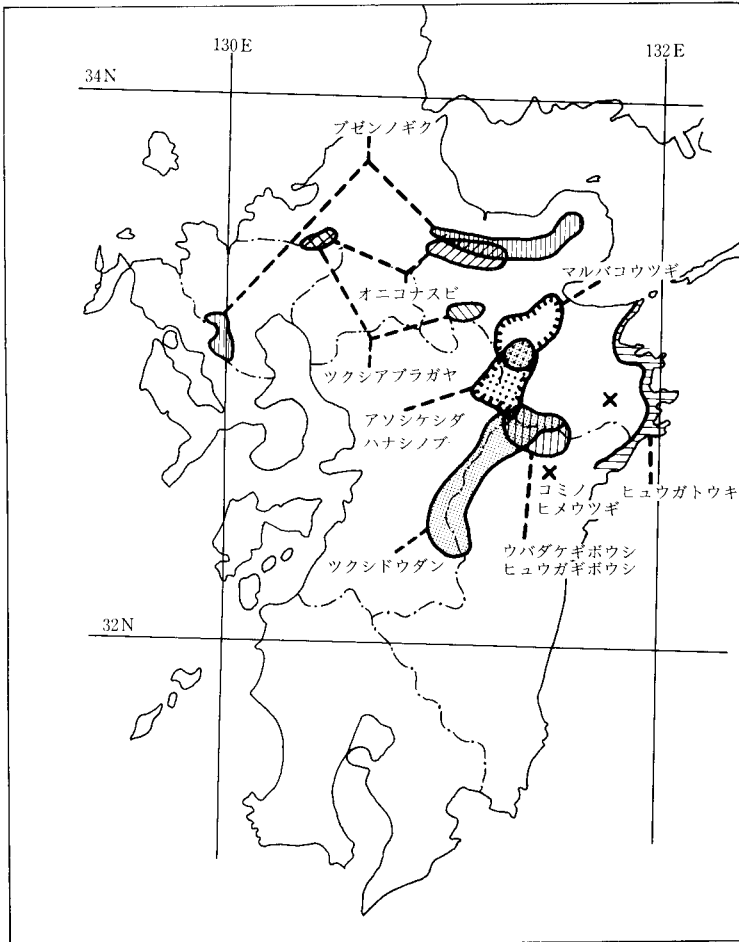


図4. 九州固有種 (A)

- ヒュウガトウキ (大・宮)
- ツクシドウダン (大・熊・宮)
- ツクシオガマ (大・熊・宮・鹿)
- アソノコギリソウ (長・佐・福・大・熊・宮)
- ツクシカシワバハグマ (大・熊・宮・鹿)
- ③ 九州本島分布型
- 大分県を含み、九州本島の全県に亘って分布域をもつ固有種。
- ツクシテンツキ (長・大・熊・鹿)
- ツクシマムシグサ (全県)
- ツクシショウジョウバカマ (全県)
- テリハアカショウマ (全県)
- ミヤマキリシマ (全県)
- ウラジロヤナギアザミ (長・福・大・熊・鹿)
- ツクシアザミ (全県)
- ツクシコウモリソウ (長・佐・大・熊・宮・鹿)
- ツクシトウヒレン (全県)
- ヒナヒゴタイ (長・福?・大・熊・宮・鹿)

(3) ソハヤキ要素の植物

日本固有種で、西南日本の中央構造線外帯、近畿の紀ノ川、四国の吉野川と佐田岬、九州の白杵と八代を結ぶ線から以南の太平洋側の山岳

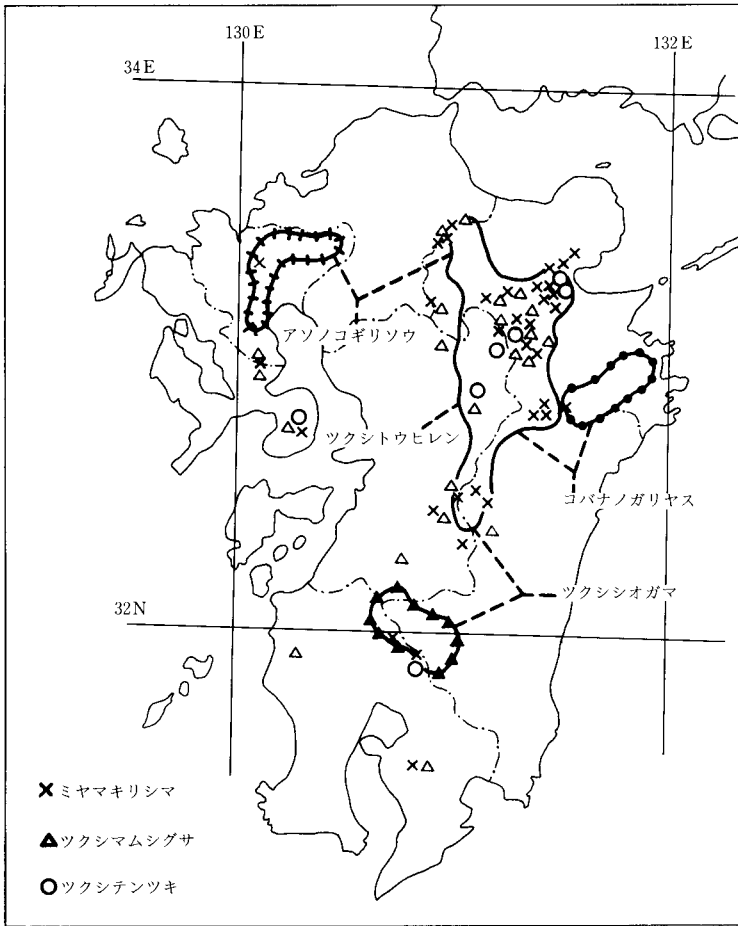


図5. 九州固有種 (B)

地域を中心に分布する植物群。これを九州(熊襲), 四国(速水瀬戸), 紀伊半島の各頭字を合わせてソハヤキ(襲速紀)要素と呼ばれている。

これらの植物群は, 大分県内では祖母・傾山地から宮崎県境の山地に集中して産するが, その分布域は豊後水道域まで広がるものがあり, さらに, 九重火山群や由布・鶴見火山群, 日田・津江山地や英彦山・犬ヶ岳までに及ぶものがある。その分布型を示したものが図6. である。図7. にその当該植物の分布図を掲げてある。

① 祖母・傾山地分布型

タシロノガリヤス, シコクヒロハテンナンショウ, ウバダケギボウシ, ヒュウガギボウシ, キレンゲショウマ, タマカラムツ, ヤハズアジサイ, ウバダケニンジン, ミヤマノダケ, ウンゼンツ

ツジ, シマサクラガンピ, ミヤマコナスビ, オニツクバネウツギなど。

② 祖母・傾山地, 県南山地分布型

アワモリショウマ, オンツツジ, フジツツジ, ケイビラン(一部九重火山に分布)など。

③ 祖母・傾山地, 九重火山, 由布・鶴見火山分布型

ユキワリイチゲ, オオバメギ, ワタナベソウ, イヨフウロ, ツクシシヤクナゲ, ヨウラクツツジ, シノノメソウ, コクワガタ, ウスバヒョウタンボクなど。

④ 祖母・傾山地, 九重火山, 英彦山分布型

シロモジ, ギンバイソウ, テツカエデ, メグスリノキ, ハガクレツリフネ, オオクマヤナギ, ヒコサンヒメジャラ, シコクスミレ, コハクウ

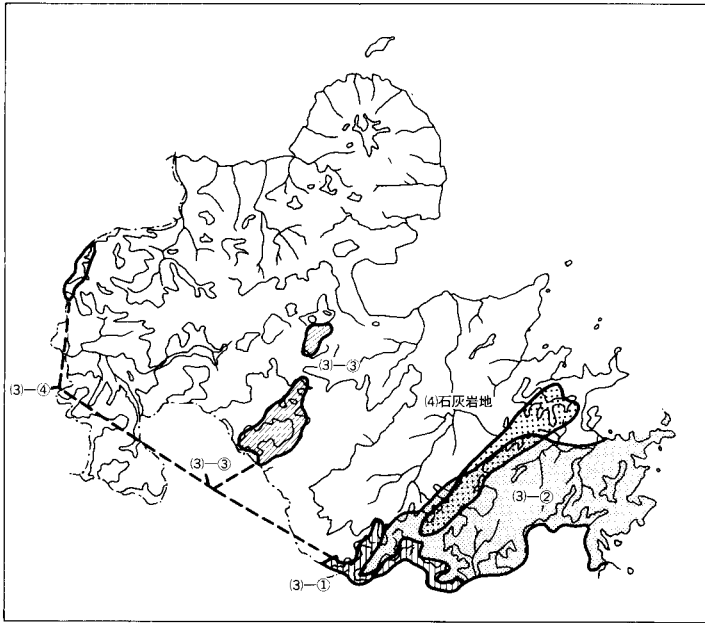
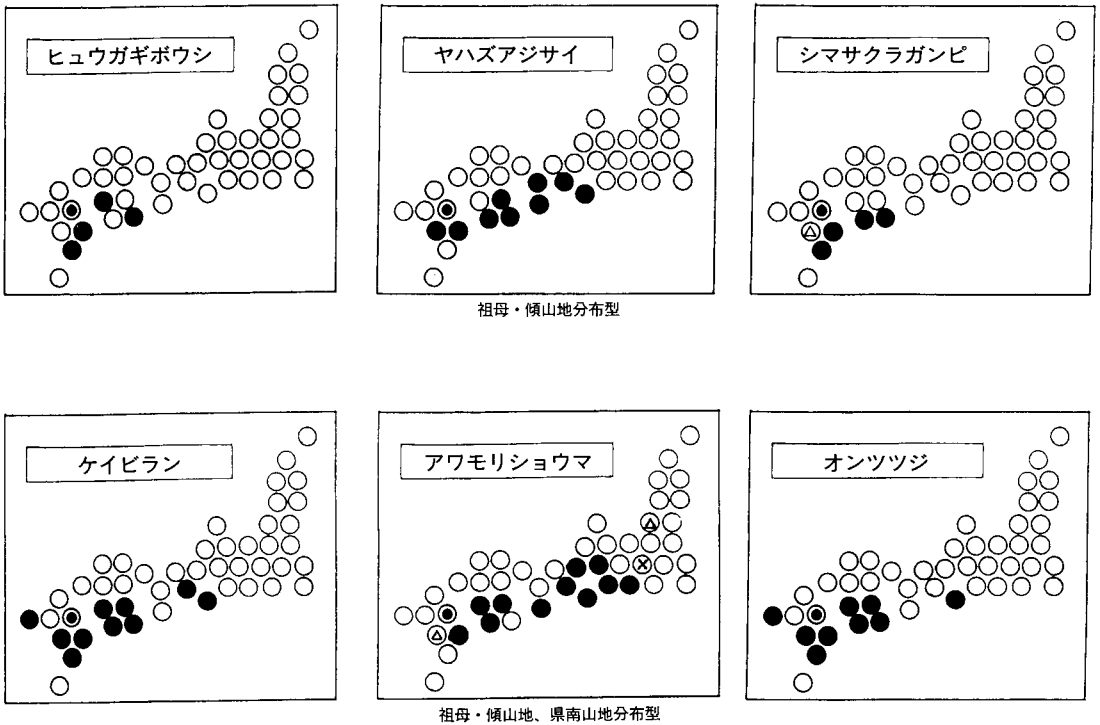
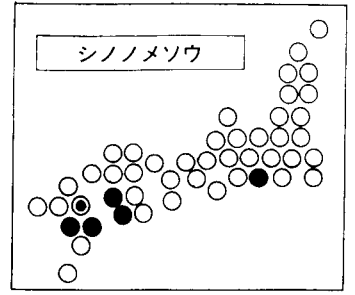
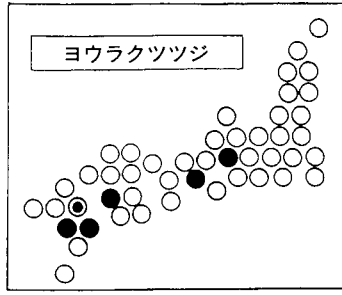
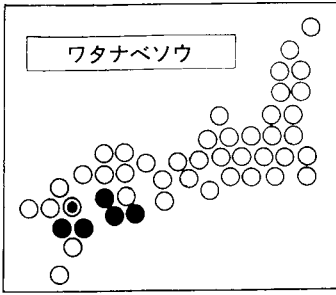


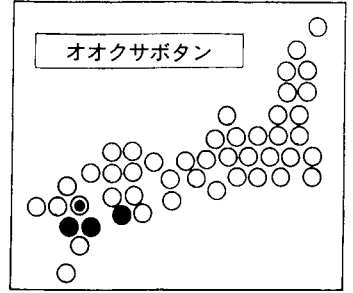
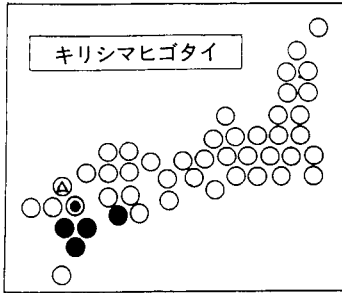
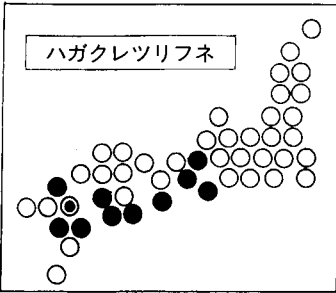
図6. ソハヤキ要素の植物の分布型

図7. ソハヤキ要素の植物の分布図





祖母・傾山地、九重火山分布型



祖母・傾山地、九重火山、英彦山分布型

石灰岩地分布型

ンボク, オオモミジガサ, キリシマヒゴタイ, クサヤツデ, テバコモミジガサ, ニシノヤマタイミンガサなど。

(4) 石灰岩地の植物

西南日本の中央構造線外帯に沿って分布する石灰岩地に特産する植物群。大分県では、オオクサボタン, シロバナハンショウヅル, コミノヒメウツギ, イワツクバネウツギなどがみられる。このほかに、キドイモトソウ(台湾), タチデンダ(中国ほか)も産する。

(5) 西南日本偏在種

主として西南日本に分布するが、大分県を北限域とする植物群(a), 西南日本に分布域を持ち大分県が分布域のおよそ中ほどにある植物群(b)及び大分県が分布の西南限域にある植物群(c)に分けられる。それらの植物群の大分県での分布型は多様である。

① 中津・宇佐地域分布型

ツクシナルコ(c), ヒロハマツナ(b)など。

② 英彦山, 耶馬溪・国東半島地域分布型

イナコスズ(c), イブキザサ(c), チュウ

ゴクホトトギス(c), ミヤコミズ(c), タイリンアオイ(b) ナメライモンジソウ(c), セトウチマンネングサ(c), ツシママンネングサ(b), コウヤミズキ(c), クロタキカズラ(c), エンシュウツリフネ(c), ヒコサンヒメシャラ(c), キシツツジ(c), クロミノニシゴリ(c), イワギリソウ(c)など。

③ 由布・鶴見火山, 九重火山分布型

ツクシクロイヌノヒゲ(b), ウンゼンザサ(c), エチゼンネザサ(c), ミヤマクマザサ(c), クジュウスゲ(c), ノヤナギ(b), ミヤコアオイ(c), ユキワリイチゲ(c), バイカイカリソウ(b), トウゴクサバノオ(c), シモツケソウ(c), テリハアカショウマ(a), フジキ(c), ナガサキオトギリ(b), ケミヤマナミキ(c), キュウシュウコゴメグサ(b), ウ斯巴ヒョウタンボク(c)など。

④ 祖母・傾山地分布型

ムカゴサイシン(a), オオバメギ(c)など。

⑤ 石灰岩地分布型

イワツクバネウツギ(c)など。

⑥ 県南山地, 豊後水道域分布型

オキノシマテンナンショウ(c), オニツル



ボ(c), キリシマエビネ(a), サダソウ(a), ハナガガシ(a), サンヨウアオイ(b), フジセンニンソウ(b), アワモリショウマ(c), シャリンバイ(b), サザンカ(b), トサムラサキ(c), アジズリノジギク(c), セトノジギク(c), ノジギク(b)など。

⑦ 広域分布型

ツクシイワヘゴ(c), ワタリスゲ(b), ヒメウラシマソウ(b), ミツバテンナンショウ(b), オオキツネノカミソリ(b), キクバドコロ(c), クロフネサイシン(c), サバノオ(b), ハンショウヅル(c), ケクロモジ(b), バリバリノキ(b), タカネマンネングサ(b), イワネコノメ(b), コウツギ(b), シロバナネコノメ(b), ツクシネコノメソウ(b), ブンゴウツギ(b), リンボク(b), クマヤマグミ(b), マンリョウ(c), ツクシココメグサ(b), キリシマヒゴタイ(a), ツクシタンポポ(b)など。

(6) 北日本偏在種

固有種で、中部・関東・東北・北海道などの北日本に分布域を持ち、大分県が西南限域にある植物群。大分県では、由布・鶴見火山、九重火山分布型が多く、ほかに英彦山分布型もみられる。

① 由布・鶴見火山、九重火山分布型

カリヤスモドキ, \*アズマザサ, \*オオクマザサ, \*オオシダザサ, \*オオバアズマザサ, \*タンガザサ, \*ツクバナンブスズ, \*ヒシユウザサ, \*オオイヌノハナヒゲ, \*ムカゴツヅリ, \*エダウチチゴユリ, チャボゼキシヨウ,

ネバリノギラン, ミズトンボ, \*ハシバミ, \*オグラセンノウ, ヒツジグサ, ヤマオダマキ, \*オオウラジロノキ, クサボケ, \*ミヤマウラジロイチゴ, トチノキ, \*ミヤマウコギ, カノツメソウ, \*ハシリドコロなど。

\*印 九重火山分布型

② 祖母・傾山地分布型

ハリモミ, クロクモソウ, コメツツジ, オニイボタなど。

③ 英彦山, 津江山分布型

タカネマスクサ, フガクスズムシソウ, ツクバキンモウソウなど。

2. 北方寒冷地の植物

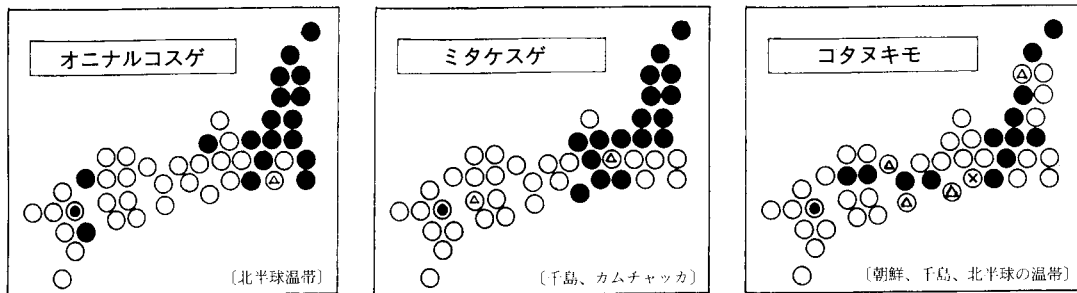
日本の中部地方, 東北地方, 北海道から, さらに千島, 樺太, 朝鮮, 中国(東北部), シベリア地方などの日本を越えた寒冷地の北方域に分布し, 氷河期に南下したとみられる植物群。西南日本に隔離分布し, 九州北部を南限域とする。

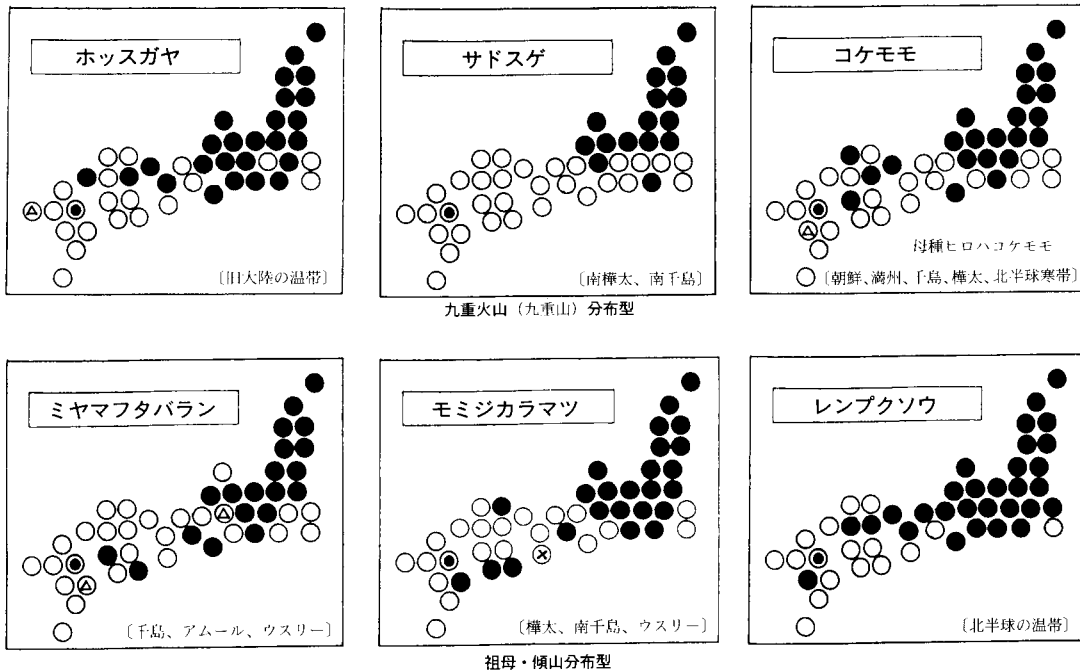
大分県では, 多くは九州山地の北側の由布・鶴見火山, 九重火山に希産する。代表する北方寒冷地植物の分布図を図8. に示す。

① 由布・鶴見火山, 九重火山分布型

チシマカニツリ, ハネガヤ, \*ヒロハノドジョウツナギ, \*ホッスガヤ, \*オニナルコスゲ, サドスゲ, シズイ, チュウゼンジスゲ, \*ハタバスゲ, \*ヤマトボシガラ, \*キバナノアマナ, \*ミタケスゲ, ホソバナアマナ, \*ワニグチソウ, \*ケハンノキ, ルイヨウショウマ, レンリソウ, \*タチフウロ, \*コケモモ, チョウジソウ, イワアカバナ, \*エゾシロネ, \*コタヌキモな

図8. 北方寒冷地の植物の分布図





ど。

\*印 九重火山分布型

② 祖母・傾山分布型

ミヤマフタバラン、モミジカラマツ、レンブクソウなど。

③ 英彦山分布型

セイトカズズムシソウなど。

3. 大陸系遺存植物 (満鮮要素の植物)

中国北部・東北部(旧満州)、朝鮮半島が、氷河期に西南日本と陸続きになったされるときに分布域を東へ広め、主として西南日本に分布域を持つ大陸系の遺存植物群。九州北部や中国地方、さらには、近畿地方に及ぶものがある。九州では、大分県の中央部火山地域や熊本県の阿蘇火山域に多い。

大分県では、次の分布型がみられる(図9.)。図10. は、それぞれの分布型の植物の分布図である。

① 周防灘海岸分布型

河口の汽水域や塩田跡地を生育地とする植物群。

シチメンソウ

② 国東半島、耶馬溪地域分布型

主として、県北の耶馬溪熔結凝灰岩や筑紫溶岩の岩角地を生育地とする植物群。

チョウセンガリヤス、ケタガネソウ、イワシデ、ウンゼンマンネングサ、ツシママンネングサ、チャボツメレンゲ、ヤブサンザシ、イワガサ、チョウセンニワフジ、チョウセンヤマハギ、ゲンカイツツジ(カラムラサキツツジ)、ホソバヤマジソ、ホソバママコナなど。

③ 由布・鶴見火山、九重火山分布型

主として新しい中央火山地域で、由布・鶴見火山、九重火山の火山性高原を生育地とする植物群。

アオウシノケグサ、ミドリヨウラク、ヒメユリ、エヒメアヤメ、ワダソウ、ノカラマツ、ヤマエンゴサク、ツルフジバカマ、ヒメヨツバハギ、コウライトモエソウ、キスミレ、ホソバシロスマレ、シラハノダケ、ツクシボウフウ、ツシママコナ、ホソバヒメトラノオ、キクアザミ、シオン、タカネコウリンギク、チョウセンスイラン、ヒゴシオン、ヒゴタイ、ヒロハヤマヨモギなど。

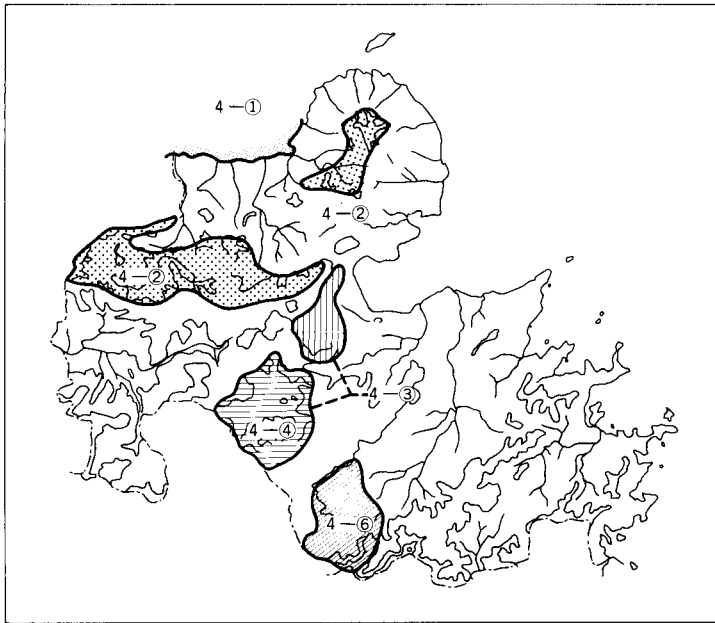
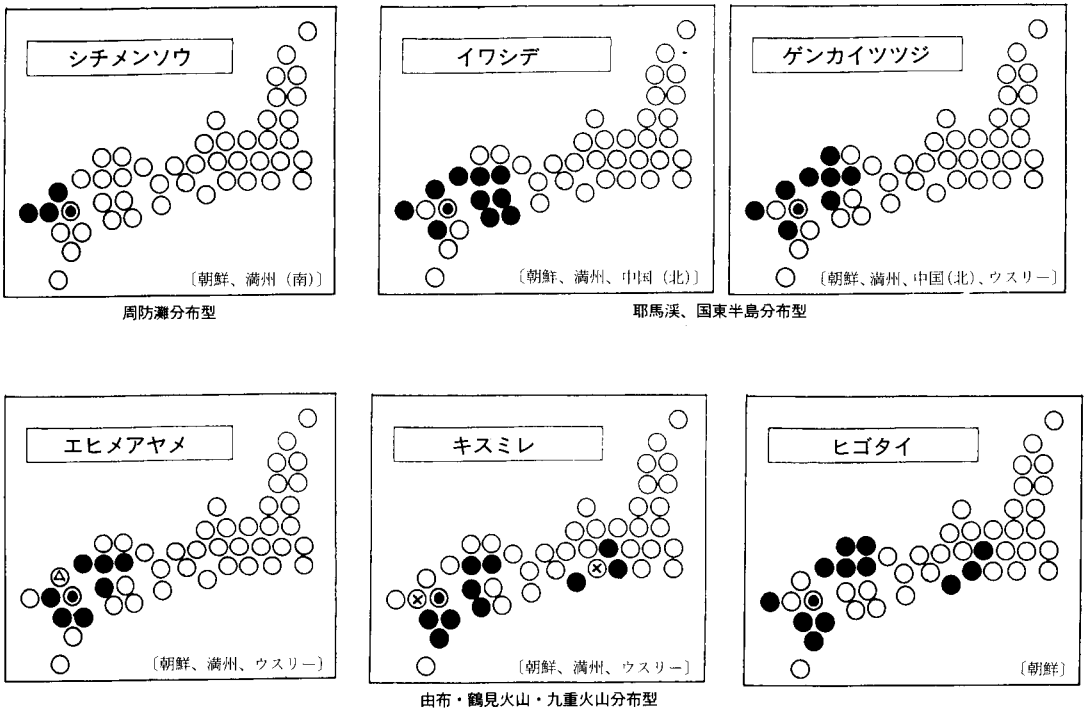
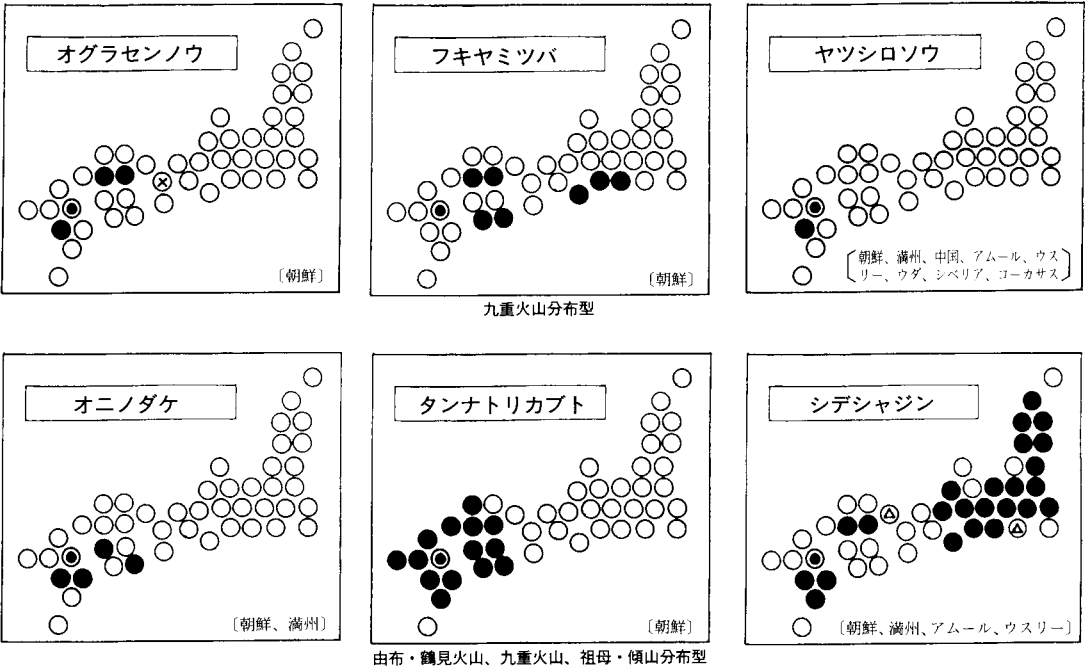


図9. 大陸系遺存植物の分布型

図10. 大陸系遺存植物の分布図





④ 九重火山分布型

主として九重火山の山地や火山性高原を生育地とする植物群。種によっては玖珠地方や津江地方にも分布する。

タマボウキ、ハシバミ、オグラセンノウ、ハナカズラ、タチフウロ、ツクシフウロ、オオヤマカタバミ、タチスミレ、フキヤミツバ、ヤツシロソウ、ヒロバトラノオ、ハナムグラ、イワギク、コウリンギクなど。

⑤ 九重火山、英彦山分布型

九重火山。由布・鶴見火山及び祖母・傾山を生育地とし、種によっては英彦山に分布する植物群。

タンナトリカブト、オククルマムグラ、オオキヌタソウなど。

⑥ 祖母・傾山地分布型

コウライブシ、オニノダケ、シデシャジンなど。

4. 暖地植物

分布域が日本の南西海岸地域、沖縄や台湾などの亜熱帯、さらに熱帯地域に分布している植

物群。豊後水道域を中心として、図11. に示す分布型が認められる。図12. はそれぞれの分布型を表す植物の分布図である。

① 豊後水道域分布型

佐賀関半島以南、宮崎県境までの豊後水道域で、黒潮が流入し、気候温暖で、冬の季節風の影響が少なく、最低気温を示す1月の平均気温が6℃である。この等温線は別府湾及び国東半島の北側、姫島を含んでいる。

オオイワヒトデ、コウラボシ、タマシダ、ピロウ、タキキビ、ハイキビ、ホウライチク、キノクニスゲ、ヒゲスゲ、ハマカンゾウ、ヒメヤブラン、ハマオモト、サダソウ、アコウ、ハドノキ、ヤナギイチゴ、フジセンニンソウ、ハマビワ、ハマキイチゴ、ハカマカズラ、ヒゼンマユミ、ショウベンノキ、ハチジョウキブシ、ヒュウガトウキ、モクタチバナ、オオパイボタ、イヨカズラ、オキナワシタキヅル、トキワカモメヅル、オオムラサキシキブ、ソナレムグラ、アゼトウナ、ウスベニニガナ、セトノジギク、ソナレノギクなど。

② 豊後水道域を主分布地とし別府湾、国東半島沿海地に及ぶ分布型

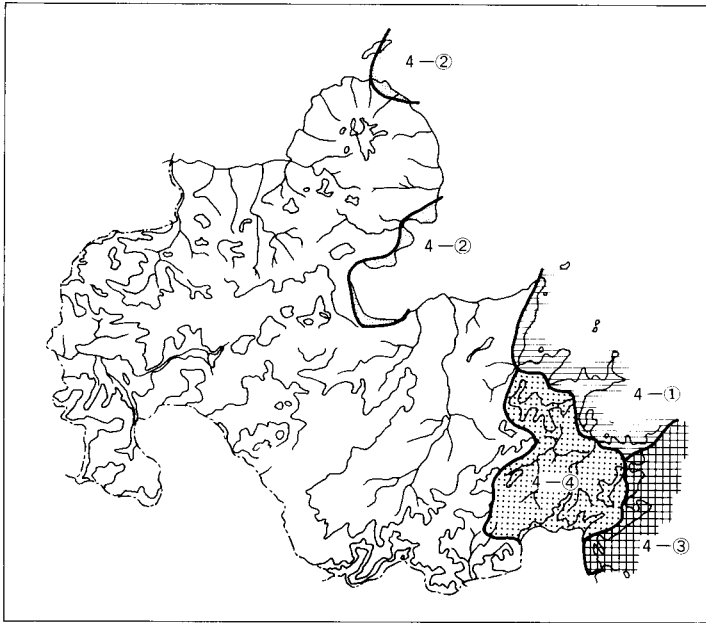


図11. 暖地植物の分布型

ハチジョウススキ, マルバツユクサ, ノシラン, ツルソバ, シマキケマン, ツクシキケマン, ハマセンダン, タイミンタチバナ, アオイゴケ, アシズリノジギク

③ 鶴御崎以南の豊後水道域分布型

およそ鶴御崎を境として, その南海岸と鶴見町, 米水津村及び蒲江町の豊後水道域の南側で黒潮が直接海岸を洗う温暖地である。1月平均気温はおよそ7°C, 無霜地域。

ハマホラシノブ, コオニシバ, コササキビ, シオカゼテンツキ, キキョウラン, オキノシマテンナンショウ, アオノクマタケラン, ニラバラン, ヒメハマナデシコ, ハマツメクサ, シオイカリソウ, クズモダマ(カマエカズラ), ハマナツメ, アツバスマレ, ノアサガオ, グンバイヒルガオ, マルバチシャノキなど。

④ 県南内陸部分布型

臼杵湾以南の豊後水道域海岸から内陸部, 臼杵市, 津久見市, 佐伯市, 直川村, 弥生町, 本匠村, 宇目町などに及ぶ分布型。植物によっては三重町までに広がるものもみられる。海岸から内陸部を含めて大分県の気候区では南海型とされる。年平均気温は16°C, 年降水量は2,000mm

を越える温暖多雨地域である。

ハナガガシ, タイワントリアシ, ツチトリモチ, ヒメイカリソウ, オオバライチゴ, シロバイ, アブラギリ, アオギリ, タイミンタチバナ, モロコシソウ, カンザブロウノキ, コフジウツギ, メジロホオズキ, サツマルリミノキ, タニワタリノキ, ヘツカニガキ, ミサオノキ, ルリミノキなど。

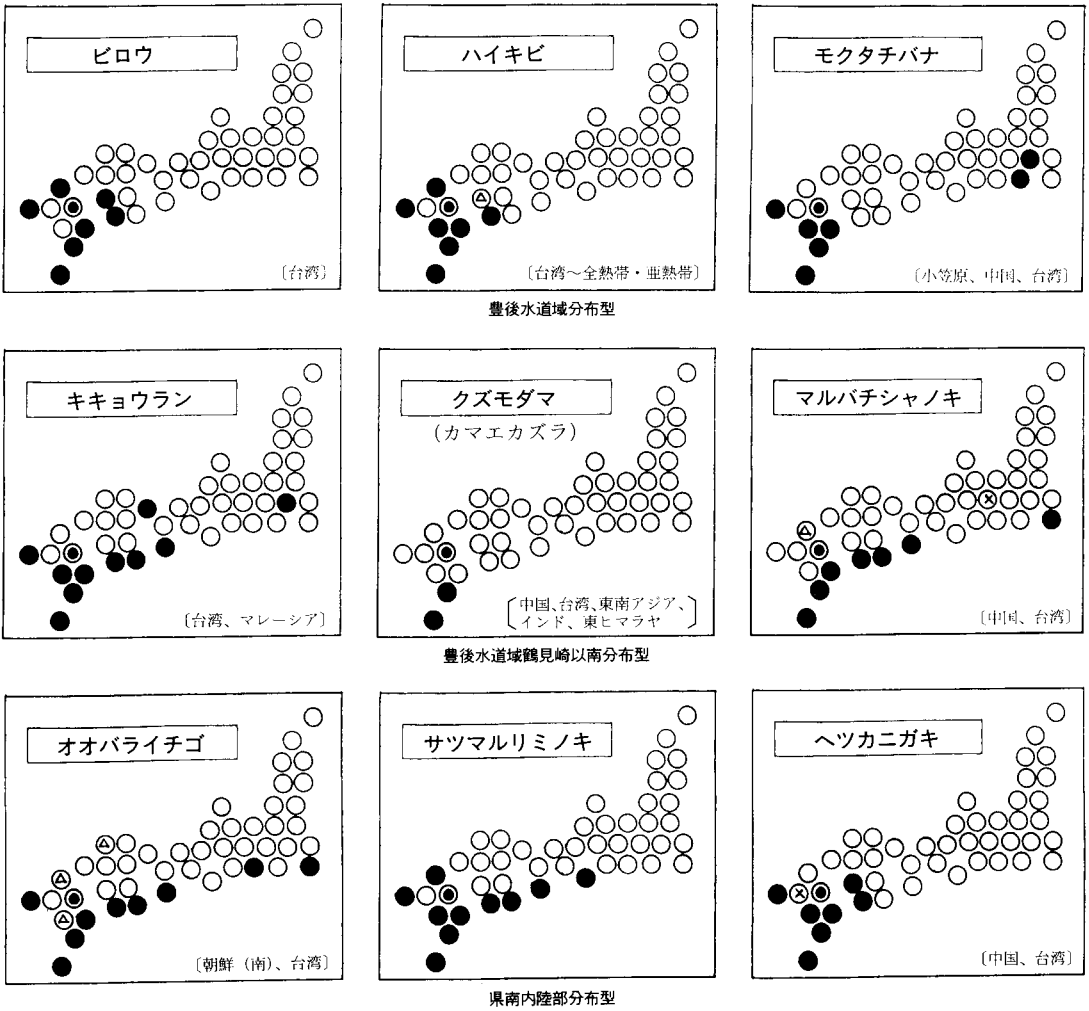
このほかに, 豊後水道域に顕著に分布するウバメガシとクマバアアカネがある。ウバメガシは関東地方以西, 特に瀬戸内海に顕著にみられ, クマバアアカネは朝鮮からアムール, ウスリーに分布する寒冷地の植物である。

⑤ 低地・丘陵地分布型

中国の中南部, 台湾, 朝鮮の南部などに分布し, 西南日本に広がる及ぶ日華区系の暖地植物で常緑広葉樹が多い。大分県では, 海岸から低地, 丘陵地の600mまでに発達するスダシイ群団を構成する植物が多くみられる。『新版大分県植物誌』の「植物分布図」から暖地植物-低地・丘陵地型の分布図を引用した(図13.)。

ヒモラン, オオフジシダ, ナチクジャク, コバノカナワラビ, センリョウ, ヤマモモ, アラ

図12. 暖地植物の分布図



カシ, ウラジロガシ, シラカシ, シリブカガシ, スダジイ, ヤマモガシ, ポロポロノキ, カゴノキ, カナクギノキ, シロダモ, タブノキ, ホソバタブ, ヤブニッケイ, イスノキ, ハマナタマメ, ヒメユズリハ, クロガネモチ, シイモチ, ソヨゴ, タラヨウ, ナナメノキ, モチノキ, コバンモチ, ホルトノキ, サカキ, ハマヒサカキ, ヒサカキ, ヤブツバキ, トベラ, コショウノキ, ヤブコウジ, ヒメアリドオシ, クロキ, ネズミモチなど。

### 5. 特殊分布する植物

前述した植物群以外で、大分県が隔離した特別な生育地となっている植物。

① オトメクジャク *Adiantum edgeworthii* Hook. (ミズワラビ科)

中国東北部からフィリピンとインドにかけて分布するシダ植物。日本では大分県の挾間町内成・田代, 安心院町豊石の向陽の水田石垣に生育している(共に県指定天然記念物)。最近, 院内町でも同様な環境で生育しているのが確認された。危急種。

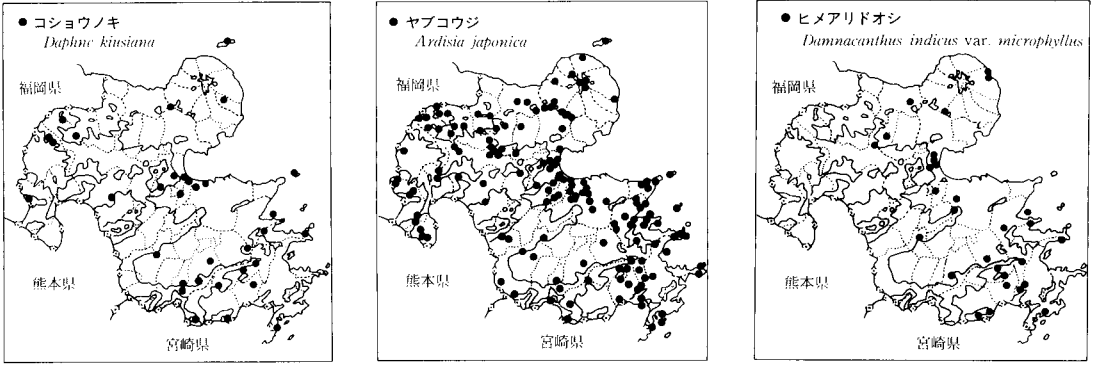


図13. 暖地植物—低地・丘陵地の分布型

② ホウライクジャク *Adiantum capillus-junioinis* Rupr. (ミズワラビ科)

朝鮮, 中国, 台湾に分布するシダ植物。日本では, 大分県本匠村の石灰岩地にだけに生育している(村指定天記念物)。道路沿いに生えており生育する面積は狭い。危急種。

③ チョクザキミズ *Lecanthus peduncularis* Wedd. (イラクサ科)

中国雲南, 四川, 貴州和湖西南部及びインドに分布する多年生草本。熊本県蘇陽町で発見され, 大分県でも県境近くの荻町白水ノ滝, 井ノ尻滝, 竹田市次倉, 久住町白丹の滝で生育が確認されている。

④ ナガバヒゼンマユミ *Euonymus oblongifolius* Loes. et Rehd. (ニシキギ科)

中国雲南, 四川, 湖北, 江西, 安徽, 浙江, 福建, 広東, 広西に分布する常緑広葉小高木。日本では, 院内町の高並と五名だけに生育する。和名は初島住彦博士により命名された。

⑤ ツクシカイドウ *Malus hupehensis* Rehd. (バラ科)

中国, ヒマラヤに分布する落葉小高木。九州に自生するとされている。京大理学部植物学教室に大分県中津市大貞の標本がある。その生育地は開かれて消滅してしまっている。

文 献

荒金正憲:1990 大分県産植物の分布型について  
 (1) 別府大学短期大学部紀要 59-68  
 岩槻邦男編:1992 日本の野生植物 シダ 平凡社  
 (関係部分)  
 大井次郎・北川政夫改訂:1985 新日本植物誌  
 顕花編 至文堂 各論(関係部分)  
 大分県:1973 大分県の気候誌 図表の部 平均気  
 温・降水量(関係部分)  
 大分県植物誌刊行会:1989 新版大分県植物誌 大  
 分県の地質 大分県産植物の概要 植物目録  
 大分県産植物分布図(関係部分)  
 熊本記念植物採集会:1969 熊本県植物誌 長崎書  
 店 熊本県産植物目録(関係部分)  
 瀬井純雄:19963 阿蘇における大陸系遺存植物の  
 分布 熊本記念植物採集會會誌 BOTANY  
 No.43 69-92  
 中国科学院植物研究所主編:1987 中国高等植物図  
 鑑 第一冊 科学出版社 512  
 中国科学院植物研究所主編:1987 中国高等植物図  
 鑑 第二冊 科学出版社 673  
 筒井貞雄:1983 福岡県のカヤツリグサ科植物予報  
 (1)-福岡県産植物標本目録-(1)福岡の植  
 物 第8号 69-119  
 筒井貞雄:1981 オニコナスビの分布と特徴 種子  
 植物ノート(3) 福岡の植物 第7号 127-  
 132  
 戸山三郎:1980 長崎県植物誌 長崎県生物学会・  
 長崎県理科教育協会 長崎県植物目録(関係部  
 分)  
 南谷忠志:1990 宮崎の草木と人と(3) フロ  
 ラの構成メンバーたち-宮崎の自然 第3号

8-28

日本野生生物研究センター：1992 緊急に保護を要する動植物の種の選定調査のための植物 都道府県別分布表 (関係部分)

初島住彦：1991 日本新産植物2種 植物地理・分類研究 第39巻 第1号 39-40

初島住彦編：1986 改訂鹿児島県植物目録 鹿児島

県植物同行人会 (関係部分)

馬場胤義編：1964 佐賀県生物誌 植物編 シダ植物・種子植物 佐賀県理科教育振興会・佐賀県理科教育協会 (関係部分)

平田正一：1984 宮崎県植物誌 宮崎日日新聞社 宮崎県植物目録 (関係部分)